

## 地域の農地を守り、農業を通して地域貢献するプラン

株式会社あめかわ農園  
代表取締役 雨河 昇

### 1 はじめに

株式会社あめかわ農園は雨河昇が昭和50年にUターンし農業後継者として就農したのが始まりです。水稻中心の経営体であり、就農以来、集団転作等地域の農家との協調性を図り、地域全体の農家が潤う新技術の導入、新品種の展示圃場など農家の方が直接見て触れる機会を多く作り、着実に経営規模の拡大と経営の安定化を推し進めてきました。

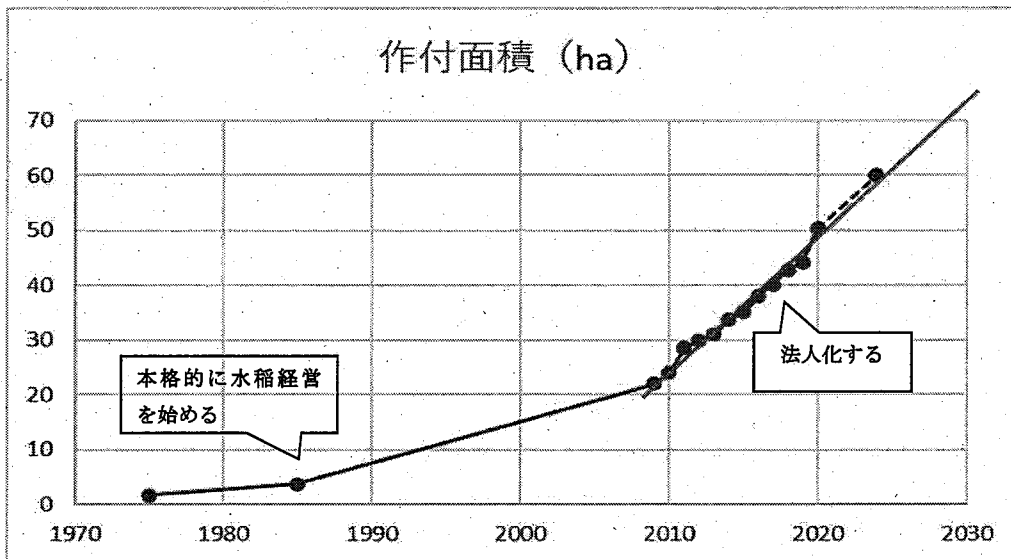
平成21年に長男■■■■が農業後継者として就農し、平成22年2月に家族協定を締結いたしました。家族協定締結以来、さらなる経営の拡大・安定を進め、円滑な農業継承と持続可能な農業経営を目指し、平成29年4月3日に法人化しました。

法人設立後も、創始の想い「地域の農地を守る」という事を最大の目的として経営しております。そのため、採算の合わない圃場であっても、遊休農地になりそうな圃場があれば積極的に受け入れるようにしております。「自分達の地域の圃場は自分達が守る」という考えの元、地域の農地保全・遊休農地化の回避・景観の確保・農業経済の発展のために、経営の規模拡大・安定化を推し進めております。

さらに、会社の特徴としまして、省力化・効率化のために積極的に新しい技術を取り入れており、高性能な大型機械の導入、パソコンを使った圃場管理システムの導入、高精度GPSによる直進アシスト機能付き田植機での田植え、ドローンによる空中散布防除を実践するなど、スマート農業にも積極的に取り組んでおります。

令和2年現在、JA■■■■管内で50haを耕作していますが、規模拡大に伴い、現状の機械設備での農繁期の作業の遅れが課題となっています。天候に左右され易い春作業では、通常2回行う耕運作業が1回しか行えない地区もあり、そのため十分な土の粉碎・除草効果を得られません。不十分な土の粉碎状態・不十分な除草効果状態の圃場において、田植えが可能となる程度の代掻きの仕上がりを求めると、通常より念入りに代掻きをしなければならず、大きな時間と労力を費やしています。この事が、代掻き・田植え作業の遅れへと繋がっており、米収穫量にも影響しております。また、地域では水路に水が流れるタイミングがほぼ同時であり、代掻きが間に合わず田植えが遅れ気味となっております。これも米収穫量に影響しております。稲刈り作業では品種構成で対策を取っているものの、コンバインの能力の関係上、刈り取りを適期に行えていないのが現状です。また、経営規模拡大に伴い整備した農業用機械を格納する施設がなく、現在、農業用機械は乾燥施設を兼ねている農舎へ格納するようにしておりますが、どうしても納まりきれない機械をやむを得ず外に置いており、シート等対策を取ってはいるものの風雨にさらされ、状態維持が難しくなっているのが現状です。また私も高齢となっており、人材・人員の転換期を迎えています。

地域では、農地の担い手の高齢化、後継者不足が益々進んでおり、今後さらに地域の農地を引き受け、守っていかなければなりません。それを実現させるためには、高性能機械の導入を図り、作業の省力化・効率化を図ると同時に、新たな人材の確保を行うことが重要だと考えております。



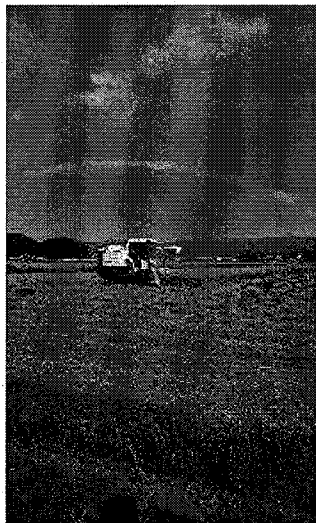
## 2 経営理念

- 一、地域の農地を守り農業を通じて地域に貢献する。
- 二、持続可能な農業をする。
- 三、農業で幸せになる。

## 3 経営の現状と計画

### (1) 経営概要 (R3)

法人設立日	2017年4月3日
代表社員氏名	雨河 昇
経営面積	50ha (うち、法人所有地 1ha、借地 49ha)
主要作目別面積	水稻
農業従事者数 (人)	常時従事者 1人 (4/1より) 農繁期限定雇用 1人 臨時雇用(学生アルバイト) 36日8時間計算 延べ18人



(2) 経営規模の現状と計画

(単位：a 7-1) 小数点以下は四捨五入

項目	R2 (現状)	R3 (計画)	R4 (計画)	R5 (計画)	R6 (目標)
経営耕地 (計)	5037	5250	5500	5750	6050
うち所有地	90	90	90	90	90
うち借地	4947	5160	5410	5660	5960
品目別栽培面積					
水稻	5037	5250	4100	4350	6050
コシヒカリ	250	250	200	200	250
ひとめぼれ	(1912)1546	2000	1500	1600	1000
きぬむすめ	(2552)2918	2600	2100	2250	3000
星空舞	324	400	300	300	400
大豆	0	0	1400	1400	0
飼料用米					1400

※ ( ) 内は作付け予定計画数値である。

※R2 は苗づくりの都合上、きぬむすめの作付けが増えた。

※R4・R5 は堤の改修工事により水路に水がのらない地区があるため、対策として大豆を作付ける。

(3) 農業労働力 (現状と計画)

農業従事者	年間農業従事日数		備考(役職等)	年齢 R2
	現況 (R2)	計画 (R6)		
氏名 雨河 昇	250	250	代表取締役	■
■	250	250	取締役	■
■	120	120	取締役	■
■	R3 より雇用	250	従業員	■
R5 雇用予定者	R5 より雇用	250	従業員	

(4) 農業機械施設の整備状況 (R3年4月時点)

別紙(1)参照

4 プラン目標

プラン実施期間 令和3～5年(3年間)

目標年度：令和6年

目標① 地域内で休耕状態となっている農地50aを含め、水稻経営面積を現状の50haから60haへ拡大し、経営の安定化を図る。

目標② 雇用を1名確保する。

目標③ 耕運・代掻き・稲刈りの作業期間を短縮する。

耕運 : 4月10日～ 5月15日 ⇒ 4月10日～ 5月10日

代掻き : 5月20日～ 6月21日 ⇒ 5月20日～ 6月15日

稲刈り : 9月 8日～10月29日 ⇒ 9月 8日～10月20日

具体的な 取組み内容 (項目)	目標及び実績値					備考
	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	
	(現状)	(計画)	(計画)	(計画)	(計画)	
経営面積 (a)	5,037	5,250	5,500	5,750	6,050	
雇用の確保	0人	1人		1人		
耕運期間内作業面積(a)	9,274 (4/10-5/15)	9,700 (4/10-5/15)	11,000 (4/10-5/10)	11,500 (4/10-5/10)	12,100 (4/10-5/10)	延べ面積(1番・ 2番耕運含む)
代かき期間内作業面積(a)	6,050 (5/20-6/21)	6,550 (5/20-6/21)	7,050 (5/20-6/15)	7,050 (5/20-6/15)	8,050 (5/20-6/15)	延べ面積(粗代掻き ・代掻き含む)
稲刈期間内作業面積(a)	5,037 (9/8-10/29)	5,025 (9/8-10/29)	5,500 (9/8-10/29)	5,750 (9/8-10/20)	6,050 (9/8-10/20)	

## 5 プラン目標達成のための課題、改善内容及びその効果

### 1) 目標達成のための課題と改善方策

#### 課題① 農繁期(4月～6月)の作業の繁忙。長時間労働・遅れの解消。

- ・ 農繁期(特に4月～6月)に作業が集中するため、規模拡大に伴って1日あたりの作業時間が14時間～16時間と長時間になっており、身体に大きく負担がかかっている。そのため、疲労により能率が低下し、作業が遅れ気味になっている。
- ・ 耕運作業・代掻き・田植えが連続作業になるため、どれか1つでも遅れると、必然的に後の作業が遅れてくる。また同時期に播種・育苗の作業もあり、大変繁忙を極めている。
- ・ 特に、天候に左右されやすい耕運作業がシビアなスケジュールとなって遅れ気味となり、繁忙を極めている。(現在は82馬力と58馬力のトラクターで対応)
- ・ 通常2回行う耕運作業が1回しか行えない地区があり、十分な土の粉碎・除草効果が得られない。不十分な土の粉碎状態で、田植えが可能となる程度の代掻き仕上がりを求めるには、通常より念入りに代掻きをしなければならず、大きな時間と労力を費やす。また十分な除草効果を得られていない状態での代掻きも、雑草を抑え込むために念入りに代掻きをしなければならず、これも大きな時間と労力を費やす。
- ・ 代掻き作業は、現在65馬力のハーフクローラートラクターで実施しているが、後輪がキャタピラーのため自走が難しく、圃場間の移動がスムーズに行えないため、作業が遅れ気味になっている。
- ・ 耕運作業から代掻き・田植え作業が連続するため畔



念入りな代かき

草除草をする時間を確保するのが難しく、2カ月以上畔草を管理できない。畔草除草に時間をかけれる田植え後の6月30日頃には畦の雑草が大きく育ち、畔草除草に大変時間と労力を費やす。

- ・ 10～15a程の小さな圃場や、農道の幅や進入路が狭い圃場もあり、それらの圃場は比較的小さなトラクター(30ps～40ps)で作業をせざるをえない。

### 課題② 水稲の刈り取り作業の遅れ

- ・ 現在買取業者の要望により、きぬむすめの需要が高く、きぬむすめを多めに作付けている。5条刈りコンバイン1台で刈り取り作業を行っている。
- ・ 早生品種と中生品種の組合せにより刈り取り適期時期をずらしているが、コンバイン能力の関係上、刈り取り適期から遅れ気味になっており、品質低下へと繋がっている。
- ・ 毎年10月20日までには中生品種のきぬむすめを刈り終わりたいが、R2年実績で10月29日までかかっており、10月20日以降は刈取適期を過ぎて品質が落ち、2等級になる比率が高い。

### 課題③ 休耕農地を受け入れが難しくなっている

- ・ 地域の農地は自分たちが守るという信念のもと採算の合わない小規模な圃場や休耕農地を積極的に受け入れているが、そのような圃場はやはり作業効率が格段に落ち、大変手間や時間がかかる。
- ・ 経営面積農増加に伴い、小規模な圃場や休耕状態の圃場に割ける時間を確保するのが難しく、受け入れが難しくなっている。

### 課題④ 面積拡大に伴い、米の置き場・機械の置き場がない

- ・ 現在、出荷先は3つの卸業者の中から、一番買取価格の高い業者に出荷している。9～10月は買取業者も繁忙期のため、米の出荷に迅速な対応が難しく、1週間に1回の引き取りとなっている。そのため農舎に出荷米が貯まり、収穫した米を置く場所の確保が難しく、結果稲刈りが滞ってしまう。
- ・ 経営規模拡大に伴って整備した農業用機械を格納する施設がない。現在、農業用機械は乾燥施設を兼ねている農舎へ格納するようにしているが、どうしても納まりきらない機械をやむを得ず外に置いているが、シート等対策を取ってはいるものの風雨にさらされ、状態維持が難しくなっている。
- ・ 現在、多数の機械を知り合いに保管してもらっているが、相手の都合上それも難しくなり、近いうちに返却される予定である。



外置き肥料



農舎の米置き風景

### 課題⑤ 雇用の確保

- ・ 現在、雇用は人手を要する種まきの時期に大学生のアルバイトで対応して

- いる。(4～5月の時期：6人程度×6～9日間)
- ・ 田植えの時期に10日間程度、近所の方にアルバイトをお願いしているが、高齢である。
  - ・ R3年現在、正規雇用が1名だが、経営面積拡大予定なのでR5年には正規雇用があと1名必要である。

## 2) 改善内容及び期待される効果

### 改善① 65馬力のホイールトラクター導入による作業の効率化・省力化

- ・ 移動スピードの速い65馬力のホイールトラクターを導入することで、作業遅れの解消を図る。
- ・ 耕運作業・代掻き作業どちらにも対応できるので、費用対効果が期待できる。
- ・ 耕運作業と代掻き作業の間に、1回畔草除草のスケジュールを入れることで、田植え後の畔草除草作業の遅れと負担を軽減できる。
- ・ 耕作業と代掻き期間の間に10日間程度の余裕を持たせることで、代掻き作業前に必要な水尻止めや暗渠止めを、ある程度まとめて行う期間を確保できる。水尻止め・暗渠止めは手作業で行うため、身体的な負担が大きく、予め終わらせておくことにより後の代掻き・田植え作業の遅れの解消に繋がる。

### 改善② 6条刈りコンバインの導入により刈り取り作業の効率化・省力化

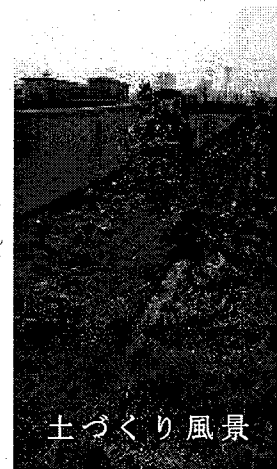
- ・ 現在5条刈り(70馬力)のコンバインで刈り取り作業を行っているが、6条刈りのコンバインを導入することで、適期収穫・品質低下防止を図る。
- ・ 現在、買取り業者の要望により、きぬむすめを多く作付けており、適期収穫のためにより高い作業能率が必要となることから、6条刈りコンバインの導入後は6条刈りコンバインをメインに作業を行う。
- ・ 現有の2台の5条刈りコンバインの内、新しい方の5条刈りコンバイン(H25導入)は、6条刈りコンバインのバックアップ機として使用すると共に、きぬむすめ刈り取り期間においては、6条刈りコンバインと共に稼働することにより、適期収穫による品質低下防止が期待できる。アワーメーター等を考慮してもシーズン通しての稼働は、維持費や整備費が高額になるため、刈り遅れ防止対策として、きぬむすめ収穫シーズンにピンポイントで大切に使う。
- ・ 古い方の5条刈りコンバイン(H15導入)は廃棄処分とする。
- ・ 刈り取り作業の遅れを解消する事で、秋鋤き作業の時間を確保することができる。

### 改善③ 省力化・効率化により休耕農地を受け入れが可能となる。

- ・ 高性能機械を導入することにより、作業の効率化・省力化が期待でき、採算が合わない面積の小さい圃場や休耕農地の復田・改善する時間を確保できる。



休耕地



土づくり風景

**改善④ 農舎を増改築し販売・出荷米と農業用機械の置き場所を確保する。**

- ・ 出荷用米の置き場所を確保する事により、稲刈り作業の滞り解消し適期収穫・品質低下防止を図る。
- ・ 出荷用米の置き場所を確保する事により、買取り価格の高い業者の1週間に1回の米の引き取りにも対応でき、販売面で有利となる。
- ・ 大型農業用機械を格納する場所を集約する事で、作業の効率化が期待できる。
- ・ 現在農業用機械を格納している場所は小型農業機械や備品格納場所として引き続き使用し、より多くの機械や備品の格納スペースを確保できる。
- ・ 将来的には乾燥施設増設を視野にいれ、60ha以上の規模拡大にも対応できるようにする。
- ・ 農業用機械の格納スペースを確保する事で、大型農業用機械の保守点検が容易となる。

**改善⑤ 積極的な雇用の確保をする。**

- ・ 現在、あめかわ農園では健康保険・雇用保険・厚生年金等、保険制度に加入していることをしっかりとアピールする。
- ・ 農業大学の雇用就農相談会等を活用し、就農に意欲的な人材の確保を目指す。
- ・ JA や周囲の方々に就農に意欲的な人材がいないか、引き続き聞き取りを行う。
- ・ ハローワークを活用し、引き続き就農に意欲的な人材確保を目指す。

**6 具体的な取組と役割分担**

具体的な取組項目	R2 (実績)	R3 (計画)	R4 (計画)	R5 (計画)	R6 (目標)	役割分担
規模拡大	○	○	○	○	○	事業主体
休耕農地の受け入れ	○	○	○	○	○	事業主体
雇用の確保	○	○	○	○	○	事業主体
耕運期間の短縮			○	○	○	事業主体
代掻き期間の短縮 適期植え付け			○	○	○	事業主体
稲刈り期間の短縮 適期刈り取り				○	○	事業主体
機械設備の充実 65馬力トラクター導入 農舎の増改築 6条コンバインの導入		◎	◎	◎		鳥取県、鳥取市、事業主体 鳥取県、鳥取市、事業主体 鳥取県、鳥取市、事業主体

◎：鳥取県、△△市町の支援の必要なもの（がんばる農家プラン事業）

○：事業主体によるもの（補助事業活用無し）

## 7 支援事業の内容（年次計画）

（単位：円）

項目	R3	R4	R5	負担区分
65馬力ホイールトラクタ	7,619,600			県 1/3 市 1/6 事業主体 1/2
グランドロータリ	1,385,000			
ウイングハロー	1,965,000			
農舎の増改築		39,926,230		
6条刈りコンバイン			16,479,100	

上記事業費は税抜き金額

年度	名称	県 1/3	市 1/6	事業主 1/2	合計
R 3	65 p s ホイールトラクタ	2,539,866	1,269,933	3,809,801	7,619,600
R 3	グランドロータリ	461,666	230,833	692,501	1,385,000
R 3	ウイングハロー	655,000	327,000	982,500	1,965,000
R 3	合計	3,656,532	1,827,766	5,484,802	10,969,600

年度	名称	県 1/3	市 1/6	事業主 1/2	合計
R 4	農舎の増築	7,000,000	3,500,000	29,426,230	39,926,230
R 4	合計	7,000,000	3,500,000	29,426,230	39,926,230

年度	名称	県 1/3	市 1/6	事業主 1/2	合計
R 5	6条刈りコンバイン	5,493,033	2,746,516	8,239,551	16,479,100
R 5	合計	5,493,033	2,746,516	8,239,551	16,479,100

## 8 機械導入理由と規模決定根拠、機種選定に当たっての考え方

別紙(2)参照

### 【別添】

- 経営試算表
- ほ場地図
- 導入機械等のカタログ、見積書（参考見積 1者分）
- 決算資料 等